

臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 閉塞性大腸癌症例における予後予測の検討』

【研究の背景および目的】

昨今の大腸癌検診の普及などにもかかわらず、閉塞性大腸癌は全大腸癌の 9.0-17.8%に認められると報告され、日常診療でも遭遇する頻度の高い疾患です。現在の大腸癌治療ガイドラインでは、閉塞性大腸癌は根治手術施行後も、再発リスクの一因と位置づけられています。その詳細な腫瘍学的理由については報告が少ないです。

そこで、東邦大学医療センター大森病院一般・消化器外科では、閉塞性大腸癌による臨床学のおよび腫瘍学的影響を検討することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、今後のより良い閉塞性大腸癌治療につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2000年1月～2015年12月までに東邦大学医療センター大森病院一般・消化器外科において、閉塞性大腸癌の手術を受けた症例(約100例)を対象とします。

診療録(カルテ)から抽出した情報を解析することにより調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

一般・消化器外科

職位・氏名 助教 鏡 哲

電話 03-3762-4151 内線 6530